

- 1 題材名 気持ち「〇〇」とは何だろう
- 2 考える価値内容 自己・感情／他者・社会
- 3 題材について

(1) 本題材と子どもたちとのかかわり

子ども達は生活の中で、漠然と「気持ち」にかかわる疑問を抱いている。子ども達の言葉で言うところのそのようなことである。例えば、「人は喜んだり、悲しんだり、怒ったりするけれど、なぜ、そのような気持ちがでるのかが、不思議に思ったから」と、自分自身が体験した気持ちや、見聞きした気持ちと人間の行動にかかわる疑問を、いくつかを並べて疑問に感じている例がある。

また、「嬉しいのに、泣いてしまう人がいるが、どうして泣いてしまうのか分からない」という疑問を感じる子どももいる。「家族の中には愛情があると思う。でも、けんかもする。仲のいい時もある。愛情とは何かと思った」というように、同じ気持ちをもちながらも行動面では異なった(時には、反対の)表出の仕方をする例などをあげて、不思議や疑問を感じていた子ども達の例もあった。

5年生の後半にもなると、相反する行動や現象の根底にある気持ちの本質を、批判的・多面的に感じたり考えたりしながら、探究することが出来るようになる子もいる。“気持ち”では、かなり広い概念なので、悲しみ、喜び、愛情、怒り、寛容・・・など、自分たちが上手につきあっていくとよい気持ちを具体的に決めて、それは一体何なのかを探究していくことにしたい。

(2) 本題材において育てたい資質・能力

- 気持ちについて、疑問・問いをもち、それらについて、批判的・多面的・論理的に思考し問い続ける。
- 気持ちについて、自分の思い・考えを伝え、他者の異質な考え方を尊重したり受容したりしながら、意識して、応答性のある関わりをもつようにする。
- 自他の思考の仕方の共通性や相違性に関心を持ちながら、気持ちについての様々な考え方や感じ方を比較して、概念化するようにする。

4 学習指導計画(全6時間)

- ヤスハルのエピソード(重松清)を読み、皆で考えたい気持ちについて話し合い、決める。
- 気持ち「〇〇」とは何かという問いについて、自分の経験に基づいて対話する。気持ち「〇〇」に似ている概念や、non「〇〇」についても話し合い、皆で概念をつくっていく。(本時)
- これから生活していく上で、〇〇という気持ちとどのようにつきあえば良いのか考える。

5 本時について

(1) 本時のねらい

気持ち「〇〇」に、似ている概念や、non「〇〇」についても話し合い、皆で概念をつくる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○課題を確認する。 気持ち「〇〇」に似ている概念や、non「〇〇」についても話し合い、皆で似ている部分を探そう。	
○気持ち「〇〇」に、似ている概念について聴き合う。 ○non「〇〇」についても話し合い、概念を明らかにする。 ○ふり返りを書き、共通に考えられることを明らかにする。	・相互に質問をしあって、相互の理解を深めて行く。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・気持ち「〇〇」について自分なりに概念の探究が出来たのか発言やノートに書かれたことから考察したい。